

## 第4回 汚染水対策現地調整会議の概要

### 1. 日程

日時:平成25年12月12日(木) 12:30~16:30

場所:Jヴィレッジ(福島県双葉郡檜葉町)

### 2. メンバー

政府: (議長):赤羽 原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)

原子力災害現地対策本部: 熊谷副本部長

復興庁: 豊島次長(福島復興局)

文部科学省: 西田放射性廃棄物企画室長

農林水産省: 遠藤水産庁研究指導課長

国土交通省: 渥美河川環境課長

環境省: 根木水環境課課長補佐

廃炉・汚染水対策チーム事務局: 糟谷事務局長補佐、吉田事務局長補佐、上田対策官、  
三木プロジェクトマネジメント・アドバイザー

廃炉・汚染水対策現地事務所: 野田所長、木野参事官、遠藤調整官、  
田原企画調整官、常泉補佐、今村補佐

関係機関: JAEA: 鳥居福島技術本部福島環境安全センター研究主席

東京電力: 相澤副社長、高橋福島第一安定化センター所長、  
岩城福島第一安定化センター副所長

福島県(オブザーバー): 古市生活環境部次長

規制当局: 原子力規制庁: 山本審議官、小坂地域原子力規制統括管理官

### 3. 結果概要

#### (1) 赤羽副大臣御挨拶

○11月25日から2週間にわたり、IAEA のレビュー調査が行われた。前回4月の調査に比べて良好な進捗がみられたとの報告があった。ひとえに現場の大変御苦労されている皆様の日々の取組が評価されたものであり、大変喜ばしく感じている。

○一昨日には、汚染水処理対策委員会において、予防的・重層的な汚染水処理対策の全体像がとりまとめられた。全体像の中には、現地調整会議において現場の視点で議論してきた数

多くの課題への対応策が反映されている。他方、委員会からは新たな対応に備えた検討課題を聞いており、一つ一つしっかりと対応していきたい。

○本日は、ヒューマンエラーの再発防止対策についての緊急安全対策の進捗状況を報告いただく。また、廃炉・汚染水対策チームの三木アドバイザーより、プロジェクトマネジメント強化に向けた説明をいただく。年末が近づいて寒さが厳しくなっており、配管等の凍結対策を講じる必要が出てくるものと思われるため、この点も現場での相互理解を深めていきたい。

○廃炉については11月18日から4号機の燃料取り出し作業が開始され、順調にスタートしたと承知している。廃炉に向けた第一歩が順調にスタートしたことは大変意義深い。決して油断することなく、引き続き、万全の体制で作業を進めていただきたい。

○本日も限られた時間ではあるが、議論を尽くしていただきたい。

## (2) 緊急対策の進捗状況報告

○東京電力から、緊急対策の進捗状況として、2・3号機海水配管トレンチ対策、護岸エリア対策工事、港湾内・外および地下水の分析結果、多核種除去設備の点検結果、H25年度凍結防止対策等について説明。

○上記説明を受け、主に以下のような議論が行われた。

- ・規制庁職員が福島第一原発の中のサーベイを実施したところ、A排水路の近傍のくぼ地や、排水溝の蓋の近傍の土も線量が高い箇所があった。周辺の土壌や草、排水溝の中の泥を除去することで濃度の低減が期待できるため、対処すべき。
- ・サーベimapを作成してどこにホットスポットがあるのか特定し、集中的に除染することで効率が上がるのではないか。
- ・止水の実際の現場は非常に複雑な構造になっていると思われる。開口部を完全に囲むように凍結できるよう設計上の工夫が必要。水抜きから閉塞が夏場にかかるため、凍結が十分にできるよう、作業の安全性含め、慎重に作業をすすめていただきたい。
- ・1号機北側の地下水濃度については、測定値が高い原因が不明ということだが、地下水の流れのシミュレーションを実施している例があるようなので、シミュレーション等の結果も参考にするとよい。
- ・護岸エリア対策については、早い対応が必要。山側地盤改良の検討はいつまでに行うのか。他の対策との関係もあると思うが、早急に対応をしていただきたい。

### (3)緊急安全対策の実施状況について

○東京電力から、緊急安全対策の実施状況について説明。(1:35)

○上記説明を受け、主に以下のような議論が行われた。

- ・ガレキは車両以外にも配管等様々なものがあるはず。そういったものも含めて計画的に撤去を進めていただきたい。固体廃棄物の保管場所についても計画的対応が必要。
- ・作業員の手当の増額について対応は進んでいるのか。
- ・作業員にこの議論が伝わるのが重要。現場の作業員にもこの場での議論の内容が伝わるようにしていただきたい。
- ・海側に破損して不要になった建物が存在している。これについても撤去を検討していただきたい。
- ・このところ現場の作業量が増えており、人員も増えている。作業量と人員、また人員数に応じた設備について適切な計画を検討いただきたい。

### (4)現地調整会議で提示された課題への対応の検討

○東京電力から、4分野(タンク対策、循環ライン信頼性向上対策、自然災害対策、漏えい防止対策)について、対応方針、対応に当たっての検討課題等を説明。また、JAEAからファイバー検出器を用いた汚染水漏えい監視に関する測定試験結果を説明。

○上記説明を受け、主に以下のような議論が行われた。

- ・タンク増設のボトルネックとなっているのは何か。
- ・現地溶接の人員、規格適合などに課題がある。また、工場製作で輸送できる容量には限りがあるが、現地溶接に意欲のある企業は現状1社のみ。
- ・規格の問題なのか人員等の体制の問題なのか、しっかり整理すべき。
- ・水バランスは厳しい状況であり、更なる計画の見直しが必要。あらゆる手立てを講じるべき。計算の前提条件が設定されているが、対策が予定通り進まなかったケースにおいてもタンク容量の余裕を確保できる計画とすべき。
- ・現地溶接は精度が課題。信頼性を確保することを前提に、JSMEとJISの違い等を整理する必要がある。
- ・溶接の精度そのものだけでなく、管理体制等、他のところでカバーできるような対策を検討すべき。
- ・建屋止水の全体像が見えないが、全体の手順や計画を作成すべきではないか。
- ・HTI建屋、プロセス建屋は、止水することも重要だが、それぞれの建屋に滞留している汚染水を処理することができればリスクを下げるができる。

#### (5) 廃炉・汚染水対策についてのプロジェクト・マネジメント強化について

○三木アドバイザーから、廃炉・汚染水対策についてのプロジェクト・マネジメント強化について紹介。

○上記説明を受け、主に以下のような議論が行われた。

・タンクの信頼性向上のためにフランジ型タンクから溶接型タンクへのリプレイスを進めようとしているが、種々の条件の議論をしている間に所定の期間に所定の数が切り替わらず、全体の信頼性が上がらないというのは良くない。

・現場溶接に品質(精度)の課題があり、現場溶接によるタンク設置が進まないのであれば、品質を現場の管理でカバーするような仕組みをつくり、より現実的な目標を立てる必要ではないか。

・必要な品質を確保することは重要。ただ、必要な品質を実現する方法はいろいろな工夫が可能であると考えられ、検討すべき。

#### (6) その他

○(4)、(5)の議論を踏まえ、タンク計画についてチームを設置し、検討を進めることを決定した。

#### (7) 次回以降の日程

○次回は1月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。